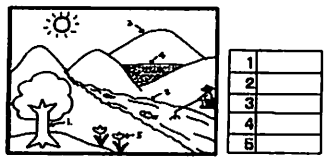


漢字力診断カード 入門編


1. 対象者 小学3年以上対応。
日本語レベル4以上の子ども
2. 漢字選定基準 漢字レベル表 (レベル4参照)
1～2年配当漢字を中心に107字を選定。
日本語レベル4では読み100字
日本語レベル5では書き100字が必要です。
使用頻度や、知識として初期に必要と考えらる漢字や言葉を選び、漢字に慣れるということを中心に問題を作っています。

漢字力診断カード(入門) 名前()

① えをみて かんじを かきましよう。



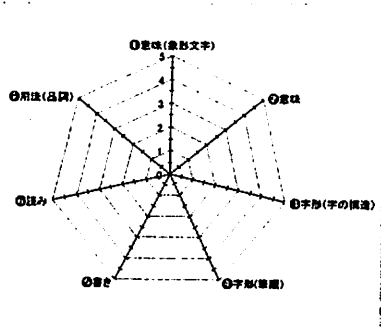
② えにあう かんじを せんでつなぎましよう。



聞く	話す	読む	見る	食べる	歩く
----	----	----	----	-----	----

③ ただしい ほうに ○を つけましよう。
ひと(人・入) ひ(日・目)
いし(石・右) たい(体・休)
はやし(森・林)

3. 漢字をただ書いて覚えるだけでなく、入門編では漢字力を下記の7つの観点から判定します。各観点ごとに5問の設問があります。観点ごとの正解数をレーダーチャートに記すと、どの観点が弱いかわかります。解説を読んで弱いところを補強してください。「漢字練習カード」でも弱点の補強の仕方が分かるようになっていています。7つの観点は下記の通りです。



- ①意味(象形文字)
- ②意味
- ③字形(字の構造)
- ④字形(筆順)
- ⑤書き
- ⑥読み
- ⑦用法(品詞)

漢字力診断カード 基礎編

1. 対象者 小学4年以上対応。
日本語レベル5以上の子ども
2. 漢字選定基準 漢字レベル表 (レベル5参照)
3年までの配当教育漢字を中心に159字を選定。
日本語レベル5では読み100～200字
日本語レベル6では書き300字が必要です。

漢字力診断カード(基礎) 名前()

① 意味(象形文字)

多い 真い 遠い 強い 重い 毒い

高い 少ない 近い 寒い 短い 静い

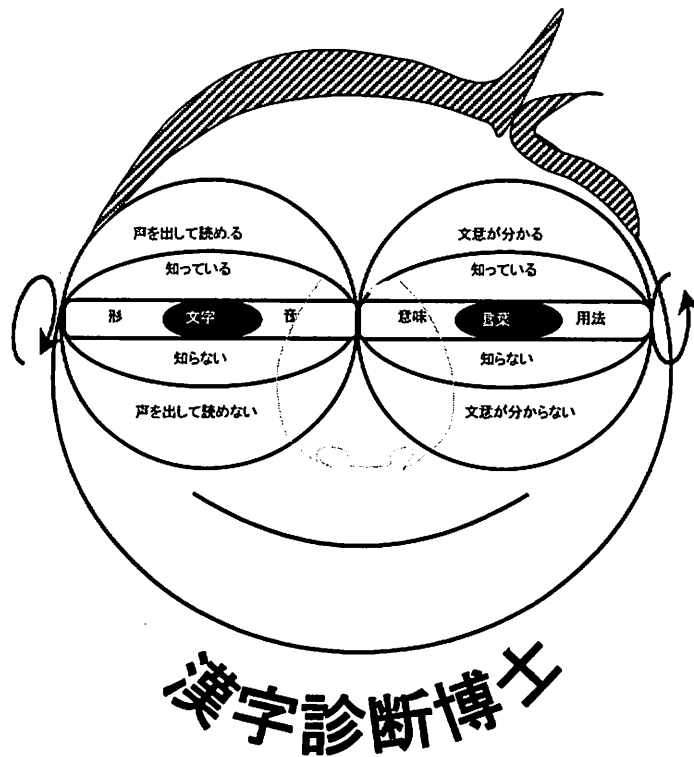
② ()の中でのひらがなをかんじで書いて、横のよにひらがなをつけてみよう。
(例: (春・秋・冬・夏)

3. 授業で不自由なく漢字を使いこなせるようにしたいものです。そのために漢字についての理解があるかどうかを確かめるためのものです。12の観点は下記の通りです。

- ①意味(反対語) ②意味(意味による分類) ③語構成 ④字形(字の構造)
- ⑤字形(筆順) ⑥文脈からの読み ⑦読み(訓) ⑧音読み ⑨読み(熟語)
- ⑩文脈からの選択 ⑪書き用法(熟語) ⑫用法(品詞)

漢字は文字としての特性と言葉としての特性を持っています。下図の“漢字診断博士”の目のように、形と音が、文字としての特性を形成しています。文字として知らなければ読めませんが、読めても意味が分からないこともあります。これは、漢字が単に記号ではなく、独自の持つその意味と用法によって言葉として成立しているからです。

言葉としての漢字を知らなければ文の意味が理解できないということになります。漢字は、形・音・意味・用法の軸を中心に、右の“漢字診断博士”の目も上下に回転しているのです。漢字は形・音・意味・用法が、それぞれ交互に結びついて、文字が語彙として、言葉としての力を発揮します。



したがって、漢字の特性が明確になる診断をする必要があるということになるのです。

授業で使える漢字は、漢字の習得だけでなく、日本語の習得ができていないと難しくなります。特に後半の観点については、日頃の読書量も関係してきます。書くことも大事ですが、まずは漢字に慣れ、読み進める力をつけて欲しいと思います。